

一本の綱に力を込めて！

ひいて ひかれて 第32回市民綱引き大会

1月15日、ホワイトキューブで「ひいてひかれて第32回市民綱引き大会」を開催しました。この大会は、運動不足になりがちな冬場の健康増進と仲間との親睦を図ることを目的に実施。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりとなった今年の大大会には、小学生の部8チーム、中学生の部5チーム、一般の部8チームの合計21チーム約300人が頂点を目指して戦いを繰り広げました。

熱戦の末、小学生の部は白石第二小学校の「ホワイトストーン」チーム、中学生の部は福岡中学校の「福中B」チーム、一般の部は「大笑い…ブラボーな仲間たち」チームがそれぞれ優勝しました。

優勝した白石第二小学校の児童は「決勝戦の2回戦で負けたときはダメかと思ったけど、仲間の声援が力になりました。優勝することができてうれしいです」と笑顔で話してくれました。



1_小学生の部で優勝した白二小「ホワイトストーン」チーム 2_中学生の部優勝の「福中B」チーム 3_一般の部を制した「大笑い…ブラボーな仲間たち」チーム

伝統を継承して

第20回冬の検断屋敷まつり

1月11日、小原材木岩公園で小原地区の冬の恒例行事「第20回冬の検断屋敷まつり」が開催されました。「検断屋敷まつり」は、平成15年の検断屋敷の整備に合わせて始まったもので、年4回、四季を通じたイベントを行って交流人口の拡大を図っています。

この日は、木臼ときねを使ってついた餅を紅白に染めて丸め、ミズキの木に飾り付けて豊作や家内安全を願う「だんごさし」や、一年間の無病息災を願って食べる餅と小豆が入った「暁がゆ」が振る舞われ、参加者は小正月の伝統行事を楽しんでいました。

また、今回の検断屋敷まつりは、地域に伝わる行事を地元の人から学ぶ体験授業として、まつりの運営に小原学園児童8人が参加。開・閉会式の司会やだんごさしのだんごを丸める作業などを地域の方と一緒に取り組み、世代を超えた交流が図られていました。



1_地域の方と呼吸を合わせて餅つきに挑戦 2_つきたての餅を一生懸命に丸める児童 3_みんなで作った餅を入れた「暁がゆ」をいただきました

無災害を願って

令和5年白石市消防出初式

1月8日、ホワイトキューブで令和5年白石市消防出初式を開催しました。この日は、市内8分団から約280人の団員が集まり、長年地域防災に尽力する消防団員への表彰、今年1年の無火災・無災害を願う「階子乗り」の演技が披露されました。

本市消防団の大野芳郎^{おののよしろう}団長は「災害はいつ起こるか誰にも分かりません。コロナ禍で集まるのが難しいなかでも工夫しながら日ごろの訓練を続けていきたいです」と話してくれました。



▲白石市消防団階子乗り隊による圧巻の演技！

三味線の音色で癒やしの時間

津軽三味線演奏のつどい

12月8日、スパッシュランドしろいしで津軽三味線演奏のつどいが開催されました。これは、同会場で実施する「生きがいデイサービス」事業のレクリエーションとして、市内在住の三味線奏者で、全日本大会で入賞経験もある八島^{やしま}義松^{よしまつ}さんがボランティアで行っているものです。

この日は、デイサービスの利用者が聞きなじみのある「さんさ時雨」や「北国の春」など民謡や演歌の曲を中心に演奏。津軽三味線の迫力ある音色が館内に響きました。



▲軽快に次々に曲を演奏する八島さん

新年の一手 盤上で熱戦！

第61回新春囲碁・将棋大会

1月15日、中央公民館で「第61回新春囲碁・将棋大会」を開催しました。囲碁・将棋の愛好家たちの実力向上と親睦を図ろうと開催している恒例の新春大会に、幼稚園、小・中学生11人を含む54人が参加。この日は、実力に応じて段級別の組み合わせで対局し、子どもから大人まで、幅広い世代の愛好家たちが盤上で熱戦を繰り広げていました。

参加者は「いろいろな方と対局ができ、今後の勉強になりました」と話してくれました。



▲真剣な表情で盤上に向かう参加者